

第 385 回 ATIS 例会報告

2016 年 12 月 21 日、ユニオンビル(富士通労働会館) セミナールーム A にて、第 385 回 ATIS 例会が行われました。

例会では、代表幹事報告、続いてシンポジウム、および賛助会員4社の新商品／特異商品紹介プレゼンテーションが実施されました。

まず、代表幹事報告にて会員の入退会状況が説明され、12/21 現在の会員数は正会員 29 社・賛助会員 8 社・特別賛助会員 4 社の合計 41 社であり、前回から変動がなかった旨が報告されました。続いて、例会スケジュールおよび活動計画の概要説明などがあり、さらに特許検索競技会のフィードバックセミナーの参加報告と、来年1月実施予定の ATIS 活動の一層の充実と活性化を目的としたアンケートについて報告がありました。

シンポジウムでは、古河テクニサーチ(株) 玉井 富士夫氏より、古河電工グループの紹介から始まり、古河テクニサーチ(株)の設立経緯と業務紹介に関するプレゼンがありました。



その中で、まず、親会社である古河電工グループの創業者や当時の歴史的経緯などの興味を深い話題や、グループの事業分野、多様な製品群などの紹介プレゼンテーションがありました。古河電工グループの事業領域は 1884 年の創業から今日まで、電線・非鉄金属の総合メーカーから時代のニーズに応え続けながら発展し、現在では情報通信、エレクトロニクス、新素材、自動車部品分野などに広がっていることが紹介されました。

次に古河テクノロジー(株)について紹介があり、1992 年 1 月に設立されて以来、知財・技術動向調査、生産活動コンサルティング、広報支援サービスの 3 事業に取り組んでおり、知財活動や人材育成の取り組み内容について、事例を交えて詳細な内容が紹介されました。共通の業務を実施している参加者も多いため、参加者と活発な質疑応答が交わされました。

休憩の後、賛助会員 4 社により各社の新商品／特異商品について紹介がありました。



まず 1 つ目は(株)RWS グループの辻氏より、「スマート冷蔵庫」を題材として、「国際特許データベース PatBase」を用いた検索事例や、PatBase の新機能紹介などがありました。同義語検索や類似検索で検出された特許について、さらに US PAIR 情報、訴訟情報、審査官情報などを表示させて確認できる機能などが紹介されました。

2 つ目は日本パテントデータサービス株式会社(JPDS)の倉永氏より、JPDS 主催の知財セミナーが紹介されました。企業の知財担当者あるいは知財以外の社員に向けた研修として各種定期開催セミナーがあり、さらに出張知財セミナーも用意されているとのことでした。これらは企業知財経験者を中心とした講師と、演習をセットにした講義で、実務に即した内容が特徴であるとのこと。また、「新設おすすめセミナー」として、サーチャー速成講座や、拒絶理由通知対応セミナー、初心者向けセミナーの紹介がありました。

3 つ目は(株) 発明通信社の青木氏より、意匠調査ツール新商品の紹介がありました。「HYPAT/意匠カスタム DB」は自分でカスタマイズ可能な意匠データベースで、調査範囲を大きなグループから徐々に細分化するとともに DB を階層化して分類していくことで基礎調査ができ、効率的でブレのない判断ができるものとのこと。また「HYPAT/DA」は特許文献をキーワードで分類し、頻出ワードの傾向を可視化して解析できるもので、その活用事例の紹介がありました。

最後の 4 つ目は(株) レイテックの川崎氏より、特許価値評価システム「PAT-ValueAs」の紹介がありました。これは、特許の書誌的情報や経過情報、等々の特許電子情報を基にした評価項目を統計処理のロジック理論で自動配点したり、最適な項目組合せを自動設定し、「特許力偏差値」を算出するものです。更に「特許力偏差値」を加算可能な指標である「特許価値」に変換することで真の意味での合計値が計算でき、分類してマップ化することにより、特許価値の自社・他社比較や時間的推移も把握できるので、研究開発や事業戦略に有用なツールとのこと。ユーザーが自社に適した重み付けを行って計算させることもできます。

例会後の懇親会は、隣接するセミナールーム B + C にて開催されました。今回は忘年会も兼ねて執り行われ、多数の会員の他に招待者としてOBの方々も参加され、大変賑やかで和気藹々の雰囲気の中、旧交を温めるとともに親交を深める懇親会となりました。

以 上